

平成 26 年度八王子市青少年問題協議会 第 2 回検討会 会議録（案）

名称： 平成 26 年度八王子市青少年問題協議会第 2 回検討会

日時： 平成 26 年 11 月 21 日（金）午後 2 時～ 4 時

場所： 八王子市役所本庁舎 7 階 701 会議室

次第

1 開 会

2 挨拶

3 第 1 回検討会の会議録について

4 議 事

- (1) 八王子市青少年健全育成基本方針 (H27～H31) の改定について
- (2) 八王子市青少年健全育成基本方針 平成 27 年度重点目標について

5 情報提供

- (1) 平成 26 年度 子どもを取り巻く事故・犯罪ゼロ作戦の取組結果について
- (2) いちよう祭りにおける薬物乱用防止啓発活動について
- (3) その他

出席： 八王子市青少年対策地区委員会連絡会代表	関口 眞吾	委員
八王子地区保護司会代表	大竹 通夫	委員
八王子市内私立中学高等学校校長代表	原田 泰宏	委員
八王子市公立中学校長会代表	清水 和彦	委員
八王子市立中学校PTA連合会代表	加地 弘子	委員
八王子市立小学校PTA連合会代表	大須賀 美奈子	委員
八王子市青少年育成団体連絡協議会代表	立川 富美代	委員
八王子警察署生活安全課少年第一係	篠原 健志	
	(渡邊 徳人委員の代理)	
南大沢警察署生活安全課少年第一係	溜渕 紘史	
	(神戸 肇 委員の代理)	
八王子市教育委員会事務局学校教育部		
統括指導主事	山本 武	委員
八王子市子ども家庭部子ども家庭支援		
センター	福田 秀之	委員
八王子市健康部生活衛生課長	山野井 寛之	委員
八王子市生活安全部防犯課長	安岡 昭司	
	(宮木 高一委員の代理)	
八王子市子ども家庭部児童青少年課長	新堀 信晃	委員 座長

出席 14 名

(事務局) 子ども家庭部児童青少年課

中山、郷田、若林

配布資料

次第及び資料 1 ～ 6

【議事要点】

1. 開会

2. 挨拶

児童青少年課長から挨拶

3. 第1回検討会の会議録について

資料1に基づき事務局から報告

【関口委員】

修正箇所の内容は同様であるが、文書としての体裁を整えてもらうよう依頼したものである。

→会議録を確定

4. 議事

(1) 八王子市青少年健全育成基本方針(H27~H31)の改定について

〈基本方針の位置付けについて〉

資料3に基づき事務局から説明

〈資料補足〉

- 基本方針は八王子市の青少年の健全育成の理念と、その理念を実現していくための家庭・学校・地域・行政の役割とその施策の基本となる方針を示している。
- 平成26年度までは「取組」としてきたが、第1回の検討と本市の基本構想・基本計画八王子ビジョン2022を踏まえて平成27年度からは「役割」として青少年問題協議会に提案していく。

〈基本方針の理念と趣旨〉

資料3に基づき事務局から説明

〈資料補足〉

- 下線箇所が主な変更点であり、八王子ビジョン2022の基本的な考え方を踏まえた文案としている。全国的に少子高齢・人口減少社会が現実のものとなっている中で、子どもの健やかな成長は市民の願いであることはもとより、子どもを地域コミュニティの再生・活力を生み出す鍵となる存在として捉えている。この趣旨から反映した部分が「青少年が様々な人と関わる」ということや「地域ぐるみのつながりを育む環境作り」にあたりその必要性を書いている。
- 「子どもたちのために、それぞれが持ちうる力によって、心を通わせ理解しあえる豊かな地域社会を構築」とは、市民それぞれが持つ様々な力によって支え合い信頼の絆でつながり生きる喜びを感じられる心豊かな地域社会を築いていくという本市の基本

構想に基づくものである。

- 八王子ビジョン2022において子どもの健やかな成長として意欲を持って学び生き生きと成長するということや次代の担い手として新たな時代を拓いていく勇氣を持てるよう市民生活のあらゆる場面で地域ぐるみで展開することを目指している。こうした考え方を踏まえて「意欲」について追記をし、現行の「社会を形成する力」を「新たな時代を拓く力」とした。
- 最終行と表題にもなっている「はちおうじっ子」は現行までは漢字で「八王子っ子」であったが、学校教育部との表記に合わせてひらがなに変更した。
- 2段落目については基本方針の位置付け、それぞれの役割と行動の基本方針を掲げたものであるということを明確に記載している。

【関口委員】

「はちおうじ」がひらがなで表記してあるので、読んだ時に「健全なはちおうじっ子」となり、読みづらさがある。「健全な」と「はちおうじ」の区切りがわかりやすいように工夫した方が良いのではないか。

【事務局】

スペースを入れるなどして読みやすいように工夫を図っていく。

→委員から特に意見等なし、検討会として内容について了承

〈1 家庭の役割「子どもの健やかな成長の基本」〉

資料2～4に基づき説明

→委員から特に意見等なし、検討会として内容について了承

〈2 学校の役割「家庭・地域とともに、生きる力を育む教育」〉

資料2～4に基づき説明

- 八王子ビジョン2022を踏まえた内容となっている。

【新堀委員】

基本方針の項目を委員の皆様にご理解いただけるように事務局で作成したもので資料4は公表するものではない。公表していくのは基本方針の太文字で示したそれぞれの項目であるということをご理解いただいた上でご意見等いただけたらと思う。

【関口委員】

家庭と学校の役割について良く書いてあって内部の資料というだけではもったいない。参考資料で出した方が良いのではないか。中身は良い。内部の資料ということだったら良いが、「生き生き」という字が「生きる力」の「生き」だと思う。読んでいてすばらしいことも多く、ぜひみんなに見てほしい。タイトルからだけではわからないことも書いてある文章なので、ぜひ活用して行ってほしい。

→委員から特に意見等なし、検討会として内容について了承

〈3地域の役割「一人ひとりの力を持ちより、高める地域の子育て力」〉

資料2～4に基づき説明

→委員から特に意見等なし、検討会として内容について了承

〈4市・関係行政機関の役割「連携とサポート体制の充実」〉

資料2～4に基づき説明

→委員から特に意見等なし、検討会として内容について了承

【新堀委員】

ありがとうございました。基本的には今回お示しした内容で八王子市青少年健全育成基本方針は承認をいただけたということで、今後進めさせていただき、次回の会議で正式な形のものをお示ししていきたいと思う。

(2) 八王子市青少年健全育成基本方針 平成27年度重点目標について

資料2及び資料5に基づき事務局から説明

〈資料補足〉

- 全小中学校に配布し、来年度の取組となることなので、いろんなご意見をいただきたい。
- 上段はいじめの現状とその対策として思いやりの心を大人から子どもへしっかりと伝えていくことが大切であり、その輪を広げていこうという内容である。
- 八王子市内で思いやりの心が生徒・児童自ら、あるいは父兄の力によって輪が広がっている具体例を紹介している。上段は恩方第二小学校の友達・家族・地域の人へ感謝の気持ちを伝える「ありがとうの木」の取組の紹介、下段は第一中学校のあいさつ運動の広がりについて紹介している。
- 行動方針1「子どもたちに信頼している気持ちを伝えよう」では、いじめにあった時、見た時に子どもたちが勇気を持って行動できるようになっていくための一歩とも言える取組を示している。
- 行動方針2「みんなで話そういじめ・ネットのこと」では、ネットいじめや依存に悩む子どもたちの現状とその対策について示している。
- 行動方針3「続けていこう！子どもたちへのあいさつ・声かけを」では、子どもの成長を待ち、地域ぐるみで子ども達を見守り育てることの基本であるあいさつ・声かけを大人から子どもへ続けていくことの大切さを示している。
- チェックリスト「～平成26年度をふり返って～」では26年度の3つの取組に関わる10項目のチェックを示している。チェックの対象者は保護者を始めとした大人である。また、大人がチェックするだけでなく、イラストでも表現しているように子どもの目から見た大人の姿はどうかと親子の会話のきっかけになればという思いが込められている。最後の質問「子どものお手本となるよう、何か意識して行っていることはありますか。」はイエス・ノーで終わらずに、オープンクエスチョンとして「お母さんはどんなことしているの」というような会話が広がるようにという工夫。

【大竹委員】

全体的に良くできているし、チェックリストもすばらしいと思う。

【新堀委員】

資料5の1頁目の事例の箇所で、学校の事例を紹介させていただいているが、表現などどうか。

【関口委員】

中学校の事例が「活動範囲を校門前だけでなく外にも広げていこう」とあるのは良いが、こうした活動をやったことでその後どうなったのか、ということがあると良いかなと思う。「明るくなった」など。ないからこうした表現なのかも知れないが、もう一言あると良いと思う。こうした活動をやっている人には「広げていくことは良いね」となるが、そうではない人から見ると「そうなんだ」となってしまう。こうした活動をやることで、こうなったんだという一言があると良い。

【新堀委員】

意見が出ていると留まるのではなくて、一歩先が見えていると。

【事務局】

中学校にも確認し、効果の広がりを書けるようであれば記載する。

【関口委員】

よろしくお願いします。

また、全体的に良くできているが、2頁目の「1. 子どもたちに信頼している気持ちを伝えよう」のところで「愛情の反対は憎しみではなくて無視だ」というように信頼することで、どうなるか言葉を入れるともっと良くなる。「こうしたら」というだけでなく。子どもは信頼されることで、自尊心や自己肯定感を持って自信を持っていけるので、書かれているとおりだとは思うのだが、何かもう少しキーワードになるような言葉があるともっと良いと思う。

それから「2. みんなで話そう いじめ・ネットのこと」のところで「子ども同士で話し合う機会をつくりましょう」とあるが具体的にどういうことなのかイメージが付きにくい。例えば学校に問いかけているのか、家庭に問いかけているのか、どういう意味で書かれているのかわかりにくい。

【事務局】

ここは、特に対象を学校だけ、家庭だけというようにはしていないが、市としては家庭・学校・地域全体で取り組むものであり、2については学校が1番同世代の子どもがいるところなので、学校の取組の中でこうしたことを活かしてもらえたらと考えている。そこで、次の段落では話しやすい環境作りは家庭ではこういったことをやってほしいと示している。前段は特に学校と限定してはいないが、イラストで学校で同級生と話す絵を入れて工夫している。「いじめについて話しましょう」とダイレクトに言ってもなかなか皆では話しにくいので話しやすいテーマを事例とした。

【関口委員】

学校の場でそうしたことに気が付いてやってくれたらいいなと思う。私の地域でも学校がこうしたことをやっている。

【事務局】

今年の照会でも学校で 100%の回答を得ており、様々な取組をしてくれている。

【新堀委員】

子ども同士で話し合うというのは、おそらく家庭よりは学校・児童館・学童保育所など多くの子どもたちが集まる場所であると思う。

【立川委員】

「2. みんなで話そう いじめ・ネットのこと」とありますが、携帯電話やスマートフォンだけでなく、今はゲームも子どもたちの時間を非常に取っている。ゲームの問題がどこかに出てきてもいいのではないかな。

それから、「1. 子どもたちに信頼している気持ちを伝えよう」とあるが、保護者自身が子どもの心も考えなかったり、社会に対しても自分勝手な行動・言動をしたりする人が増えたと感じている。そうしたことを上手い表現で入れてほしい。

いじめではなく、最近キレる子どもが割合増えていると感じている。キレるというのは一人をターゲットとするのではなく、自分の思うようにならなければカッとなること。そういう子どもを見ていると親につながる。親もまたちょっとしたことで怒る。だから、親が子どもたちに信頼している気持ちを伝えようではなくて、保護者自身が少し自分たちが子どもの手本にならなくてはいけないという言動ができるような何か指針があったらどうかと感じた。

【事務局】

1の項目の内容で入れる難しさはある。多くの保護者の皆様に向けてこうしていったほうがいいという形の意図のものでもあるので、投げかけ方の仕方の難しさもある。

今お話があったように家庭が基本で子どもの手本になるというのは、先ほどの健全育成基本方針の中でも根本的に必要だと捉えているところである。チェックリストは実はお母さんお父さんに投げかけたチェックリストになっていて、その中に例えば「親からおはようと言っていますか」「自分が携帯を遅くまで手放せなくなっていないですか」というように、「子どもは親の行動を見ていますよ、大丈夫ですか」と確認する意図で大人に向けたチェックリストにしている。こうした内容が具体的なチェックリストで自分自身を見つめ直せるようにしている。逆に親自身が自分ではできていないと思っても、子どもは自分の親はできていると感じていることがあったら、そこがまた会話のきっかけを生む。チェックリストで工夫するというのも1案としてあると思う。

【新堀委員】

「～平成26年度をふり返って～」というのは、親への自己確認を狙ったチェックリストではあるので、この箇所では我が身を振り返られるような表現としていけたらと思う。

【事務局】

あるいは、今回はこの3つの項目であるが、そういう内容であれば「親が子どもの手本となっていこう」というような項目で書いた方が明確に伝わる場所があるかなと思う。

【立川委員】

特別な人に向けてというようなことはやはり問題があるかもしれないが、少し最近感じていることを意見として話した。1の項目を見ているとみんな良い親だというように感じる。なかなかそうした親ばかりではないということをや何か表現できればいいのかなという

意見。

【大竹委員】

理想なので、悪い親を「あなたはここが悪い」というようには書けない。理想像で書いていくしかない。だめと否定をして書くということはできない。「理想の形はこうですよ」と。

【立川委員】

理想ではあるけれど、ほっておいたら、どんどんそういった親が増えていく。ここ2年ほどすごくそういったことを感じている。悪いことは書けないといことではあるけれど上手い表現であったらいいなと思う。

【関口委員】

そういう意味ではチェックリストの子どもたちのお手本のところにもう1つ四角を入れるか。ただここは平成26年度の振り返りということなので文章が合わなくなってしまうかもしれないが、入れるとしたらここしかないのではないかなと思う。

【大竹委員】

ダメな親は配っても読まないかもしれないが、読んでもらえるように読みやすくしていく工夫も必要。読みやすくして少しでも目を通してもらえればいいかなと思う。そうでないと、親を指導する文章を作ることは難しい。

【立川委員】

チェックリストは非常に良くできている。ここにそれらしいものを上手い表現で入れたらと思う。

【事務局】

基本的にはここはやっぱり親は子どもに口で言うだけでなく、行動で見せていくということも大切であることを込めている項目。親が自分の行動を振り返りつつ、子どもは良くいるんなものを見ているということを伝える工夫ができればいいと思う。

【大竹委員】

立川委員ご意見は理解できるが、全小中学生の保護者に向けて発信するもので、特定の人に配るものではないので難しさがあると思う。

【新堀委員】

事務局で工夫していけるか検討していく。

ゲームの問題についてはどうか。

【事務局】

例えば、話しやすい話題から話しましょうという事例の中でゲームをやっている子がたくさんいるという状況であれば、ゲームの使い方や利用時間をテーマに話をするというのもある。今はスマートフォンや携帯を事例で出しているの、例えばそこで工夫するのかな。

【立川委員】

家庭の中ではゲームは1時間だけとかルールを決めてやっている家庭もたくさんあるが、保護者も一緒にずっとゲームをやっているという家庭もある。ゲームもやはり子どもたちの勉強する時間などを取っているということもある。

【大竹委員】

大項目を変えなければいけなくなる。今の項目にゲームのことが入ってくるとぼやけてしまう。ここでゲームが多いよということを入れると大項目自体も変えなくてはいけなくて、何か考える必要がある。

スマートフォンのゲームはここに入るからいいが、ゲームという言葉を入れるとカードゲームなのか何なのかということでもぼやけてくる。ここにはゲームとは入れられないと思う。

「みんなで話そういじめ・ネットのこと」という題はいじめ防止の1番の項目になっているので、ここにゲームを入れるのは難しい。どこか違うところで「ゲームのやりすぎはやめようね」というような内容を入れる。2には、ぼやけてしまうから入れない方がよい。そうすると、またどこに入れるかという問題もある。今の大項目はそれぞれとても良い。

【立川委員】

1、2、3は非常に流れが良い題になっている。

【事務局】

例えば26年度の重点目標の2番がネットの依存症やいじめという捉えになっているので、その依存のところ、大人でもずっとゲームをしている人もいますので「ゲームばかりしていませんか」というようなチェック項目で入れることができるか検討していくというのはいかがでしょうか。

【大竹委員】

いじめには入れられない項目だと考える。

【新堀委員】

いじめ対策が基本にあることと、伝わりやすい全体の流れを踏まえ「～26年度を振り返って～」のチェック項目の中で工夫が図れるか事務局で検討していく。

【福田委員】

1頁目が「みんなでつないでいこう 思いやりの心」になっていて、「青少年問題協議会 NEWS」とかタイトルが何かあって、それに基づいて「みんなでつないでいこう 思いやりの心」ならわかるが、いきなり重点目標があるので、「なんだろう」と思う。

【新堀委員】

平成27年度の青少年健全育成基本方針重点目標という形でタイトルなどを入れていく。

【関口委員】

先ほど、1でキーワードについて提案したが、大切な箇所は、キーワードを太文字にするなどするとわかりやすい。2であつたら、例えば「子ども同士で話し合う」など、キーワードがあつたらわかりやすいと思う。

【事務局】

工夫し、次回提案していく。

【新堀委員】

今回議論していただいた内容を踏まえて次回最終案を示していく。資料を持ち帰って、また意見等がありましたら事務局へご連絡いただきたい。

5. 情報提供

(1) 平成26年度 子どもを取り巻く事故・犯罪ゼロ作戦の取組結果について

資料6に基づき安岡主任から説明

《資料補足》

- 「子ども事故・犯罪ゼロ情報提供」については、学校や児童館からの情報提供によって地域のお祭り等の情報をいただいて青パトの巡回強化をしている。たまり場は今回はなく、16件はすべて地域のお祭り関係である。
- 「犯罪・不審者情報メール配信」については、今までもやっていて現在約2万4千名が登録している。内容としては、地域の目でもお子さんを見守ってあげてほしいという内容で外出の際の注意点や具体的な見守り方法を配信させていただいた。
- 平成24年度から始めて3年目になる。職員も含めて八王子市全体の認知度、職員の考え方も熟成してきているのかなと感じる。
- 冬休みについても同様の取組をしていきたいと考えている。

【関口委員】

10月の末から11月にかけて子どもの連れ去り未遂事案が近くで多発した。気になって警察へ問い合わせなどをした。そういった情報ともリンクして青パトも巡回しているのか。

【安岡主任】

毎日青パトは巡回をしていて、警察との情報共有と共に青パトの巡回強化は行っている。

【関口委員】

不審者情報はいただいているが、そういった情報を青少対やPTAにもいただけたら、地域の人たちは安心すると思う。以前は関係部署には特別に情報をくれていたが、最近はない。これを機会にご依頼したい。

【安岡主任】

不審者情報に記載した地域にはすべて青パトの巡回強化をさせていただいている。ただそういった情報を知らないということだと思うので、今後検討させていただく。

(2) いちよう祭りにおける薬物乱用防止啓発活動について

山野井委員から口頭説明

【山野井委員】

国で薬事法が改正された。危険薬物、いわゆる危険ドラッグの指定薬物の指定が迅速にできるようになっている。都の条例の方も来年に条例改正されて取締と監視がより強化される。市については取締はできないので、まずは啓発ということでいろいろ取組をしている。

いちよう祭りもその中の1つ。人が集まるお祭りなので、啓発をしている。ちょうど先日の日曜日、天気が良くてたくさんの方が来場した中、中央図書館前でテントを張り啓発を行った。保護司会の皆様やロータリーの皆様、ガールスカウト・ボーイスカウトの皆様など、大勢の方にご参加いただき、我々の薬物乱用防止推進委員と一緒に啓発活動を行うことが出来た。3千部用意して配布した。また別チームで陵南公園の方でも同様に啓発物資

を配りながら薬物乱用防止について訴えかけたことが効率的にできたかなと思う。

また今年中学生向けに「脱法ドラッグに手を出さないでね」というリーフレットを作成したが、もう少し年齢層をあげて、高校生から大学生、20代をターゲットにもう少し違う視点から薬物乱用に関わる実態や「手を出さないで」ということについて訴えかけるものを薬剤師会と第2弾ということで作ろうかと企画が動き始めたところ。また何か皆さんにお示しできるものができた段階で見えていただきたいと思います。

(3) その他 次回開催について

第3回検討会 平成27年1月20日(火) 午後1時30分～3時30分
市役所8階804会議室